

予報用語改正案（全体）

〔今回の改正案で修正、新規に収録、削除する用語すべてを記載しています〕

新規に追加した用語、変更した箇所、及び関係する部分を赤字に下線で表記。青字に下線は、改正前の用語、削除する箇所を示す。

分類の説明：無印（広く天気予報、気象情報などで使用する用語）

△（天気予報などでは使用しないが報道資料などで使用する用語）

×（定義などがあいまいなため使用しない用語）

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分 類	用 語 名	説 明	分 類	用 語 名	説 明	
名称、説明等を変更した用語						
	<u>未明</u>	午前0時から午前3時頃まで。		<u>午前3時ごろまで</u>	午前0時から午前3時頃まで。	時刻を示した表現では一時間単位で雨等の始終を予想していると誤解されるため、より適切な表現に。「未明」は民間のアンケート調査においても「1時頃～4時頃」までと考えている人が多い。
	<u>朝</u> 備考	午前6時頃から午前9時頃まで。 a)「朝方」、「朝のあいだ」も同じ意味だが、これらは予報用語としては用いない。 b)「朝の最低気温」と用いるときは0時から9時。		<u>朝のうち</u> 備考	午前6時頃から午前9時頃まで。 「朝方」、「朝のあいだ」も同じ意味だが、これらは予報用語としては用いない。	より適切な表現に。
				朝	<u>「夜明け」からおおよそ9時頃まで。予報で「明日朝の最低気温」と用いるときは0時から9時。</u>	説明をより明確にする。
	<u>夜のはじめ頃</u>	18時頃から21時頃まで。		<u>宵のうち</u>	18時頃から21時頃まで。	「宵のうち」はもっと遅い時間帯を含んでいると理解されているため、より適切な表現に。
	暖候期 <u>備考</u>	4月から9月までの期間。 <u>暖候期予報では、3月から8月までを予報期間としている。</u>		暖候期	4月から9月までの期間。	暖後期予報期間を明示。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	寒候期 備考	10 月から 3 月までの期間。 寒候期予報では、 <u>10 月から 2 月</u> までを予報期間としている。		寒候期 備考	10 月から 3 月までの期間。 寒候期予報では、 <u>11 月から 3 月</u> までを予報期間としている。	寒候期予報期間の訂正。
	ところどころ 用例 備考	ある現象が散発して発生しているとき、それらの状況を総括的に表現する場合に用いる。 <u>(所々)と書いてもよい。</u> ところどころで霧が発生している。 a) その発現域の合計面積が、対象予報区全体の 50%未満である。 b) 実況に対して用い、予報に対しては「所により」を用いる。		ところどころ 用例 備考	ある現象が散発して発生しているとき、それらの状況を総括的に表現する場合に用いる。 ところどころで霧が発生している。 a) その発現域の合計面積が、対象予報区全体の 50%未満である。 b) 実況に対して用い、予報に対しては「所により」を用いる。	漢字の表記を追加。
	気圧 備考	大気のパ。通常、ある地点の気圧はその点を中心とする単位面積上で <u>その上の空気柱の総重量が相当する。</u> 単位は h P a (ヘクトパスカル)を使用する。		気圧 備考	大気のパ。通常、ある地点の気圧はその点を中心とする単位面積上で <u>鉛直にとった気柱内の空気の重さをいう。</u> 単位は h P a (ヘクトパスカル)を使用する。	説明をより詳細に。
	等圧線 用例	<u>天気図上で、気圧の等しいところを結んだ線。</u> 等圧線の間隔。1000hPa の等圧線。		等圧線 用例	等圧線の間隔。1000hPa の等圧線。	説明を追加。
	高気圧 用例	高さ（気圧）の同じ面で、周囲よりも気圧（高度）が高く、閉じた等圧線（等高度線）で囲まれたところ。 a) シベリア高気圧。太平洋高気圧。 <u>b) 優勢な高気圧。大きな高気圧。</u>		高気圧 用例	高さ（気圧）の同じ面で、周囲よりも気圧（高度）が高く、閉じた等圧線（等高度線）で囲まれたところ。 a) シベリア高気圧。太平洋高気圧。 <u>b) 背の高い高気圧。寒冷な高気圧。</u> <u>c) 優勢な高気圧。大きな高気圧。</u>	用例を整理。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	温帯低気圧 備考	中緯度や高緯度に発生する <u>水平スケール数1000km 程度の低気圧で、前線を伴うことが多い。</u> 通常は単に「低気圧」とするが、台風が温帯低気圧に変わったときなど、その変化を強調する場合に用いる。		温帯低気圧 備考	中緯度や高緯度に発生する <u>低気圧。</u> 通常は単に「低気圧」とするが、台風が温帯低気圧に変わったときなど、その変化を強調する場合に用いる。	メソスケールの低気圧やポーラローウ等、他の低気圧との区別を明らかにするため、現象のスケールを記述。
	強風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速が15m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。通常、その範囲を円で示す。		強風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速が15m/s以上 <u>25m/s 未満</u> の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。通常、その範囲を円で示す <u>ことが多い。</u>	現行は強風の領域に暴風の領域が含まれる記述形式。適切な表現に変更。
	暴風域	台風の周辺で、平均風速が25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。通常、その範囲を円で示す。		暴風域	台風 <u>や発達した低気圧</u> の周辺で、平均風速が25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域。通常、その範囲を円で示す <u>ことが多い。</u>	温帯低気圧の場合、強風域と暴風域は分けて記述しない。適切な表現に変更。
	暴風域に入る確率	ある地域またはその一部が一定の時間内に台風の暴風域内にある確率。対象区域は全ての二次細分区域及び小笠原諸島（父島、母島）、対象時間は48時間先まで3時間刻みの各時間帯、及び24時間、48時間以内。原則として2個まで（ただし、台風の中心が日本列島からおおむね300 km以内にある場合はそれらを含めて3個まで）の台風について、1日4回、 <u>03時、09時、15時、21時</u> の解析・予報に基づいて作成して発表する。		暴風域に入る確率	ある地域またはその一部が一定の時間内に台風の暴風域内にある確率。対象区域は全ての二次細分区域及び小笠原諸島（父島、母島）、対象時間は48時間先まで3時間刻みの各時間帯、及び24時間、48時間以内。原則として2個まで（ただし、台風の中心が日本列島からおおむね300 km以内にある場合はそれらを含めて3個まで）の台風について、1日4回、 <u>00、06、12、18UTC</u> の解析・予報に基づいて作成して発表する。	日本時表記に。
△	<u>藤原の効果</u> <u>用例</u>	2つ以上の台風が <u>接近して存在する場合に、台風がそれらの中間のある点のまわりで相対的に低気圧性の回転運動をすること。</u> <u>台風が、藤原の効果により相互に作用して複雑な動きをする。</u>	△	<u>台風が干渉する</u>	2つ以上の台風が <u>互いに影響しあうこと。</u>	名称を変更、説明をより詳細にし、用例も付加。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	1時間後の推定値	台風の中心位置（緯度、経度）、強度（中心気圧、最大風速）、大きさ（暴風 <u>域</u> の半径、強風 <u>域</u> の半径）の1時間後の推定値。台風解析・予報情報 <u>及び</u> 位置情報の作成・通報を毎時行っている台風を対象として発表する。		1時間後の推定値	台風の中心位置（緯度、経度）、強度（中心気圧、最大風速）、大きさ（暴風半径、強風半径）の1時間後の推定値。台風解析・予報情報 <u>および</u> 位置情報の作成・通報を毎時行っている台風を対象として発表する。	説明をより詳細に。
△	台風の中心位置の確度	台風の中心位置を決定する際に、使用する資料の精度から推定される中心位置の確度を次のように3階級で表したもの。 階 級 確 度 正 確 <u>概ね</u> 60km (30 海里) 以下 ほぼ正確 <u>概ね</u> 60km (30 海里) <u>超</u> <u>概ね</u> 110km (60 海里) <u>以下</u> 不 確 実 <u>概ね</u> 110km (60 海里) <u>超</u>	△	台風の中心位置の確度	台風の中心位置を決定する際に、使用する資料の精度から推定される中心位置の確度を次のように3階級で表したもの。 階 級 確 度 正 確 60km (30 海里) 以下 ほぼ正確 60km (30 海里) <u>以上</u> 110km (60 海里) <u>未満</u> 不 確 実 110km (60 海里) <u>以上</u>	「km」表示が概数であることを明示。
	寒気団	<u>相対的に</u> 寒冷な気団。		寒気団	寒冷な気団。	「寒」、「暖」は相対的なものであることを明示。
	暖気団	<u>相対的に</u> 温暖な気団。		暖気団	温暖な気団。	同 上
△	<u>長江(揚子江)気団</u>	一般には移動性高気圧の通過に際して、日本付近を覆う大陸性亜熱帯気団。春と秋に長江流域で発現する。	△	<u>揚子江気団</u>	一般には移動性高気圧の通過に際して、日本付近を覆う大陸性亜熱帯気団。春と秋に長江流域で発現する。	「揚子江」は「長江」に呼称変更されているが、「揚子江気団」の呼称が散見されるため、併用。
	前線	寒気団と暖気団の境界線で、風向、風速の変化や降水を伴っていることが多い。前線はその動きと構造によって温暖、寒冷、閉塞、停滞の4種類に分けられる。		前線	<u>地表における</u> 寒気団と暖気団の境界線で、風向、風速の変化や降水を伴っていることが多い。前線はその動きと構造によって温暖、寒冷、閉塞、停滞の4種類に分けられる。	説明をより正確に。用例を追加。
	用例	<u>a) 前線がのびる。</u> <u>b) 前線の活動が活発(前線付近で活発な降水現象が生じている、または予想される状態)。</u>		用例	前線がのびる。	
	備考	「のびる」に漢字は使用しない。		備考	「のびる」に漢字は使用しない。	

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	閉塞前線	寒冷前線の移動が速くなり温暖前線に追いついた前線。			<u>低気圧が発達して</u> 、寒冷前線の移動が速くなり温暖前線に追いついた前線。	説明をより正確に。
×	不連続線	<u>広義には</u> 、温度、湿度、風向、風速などが急に変わるところを結んだ線 <u>で</u> 、前線と同義として用いられる <u>場合もある</u> 。特に前線と区別する場合は、温度の変化が小さいが湿度や風の変化が大きいところに対して用いる。	×	不連続線	温度、湿度、風向、風速などが急に変わるところを結んだ線。 <u>気団の境目を示し</u> 、前線と同義として用いられる <u>ことが多い</u> 。 <u>備考</u> <u>専門的な用語のため一般には用いない。</u>	説明をより正確に。
△	<u>シアーライン</u>	風向、風速(どちらか一方でも良い)が急に変化しているところを結んだ線。総観規模の前線には大きな風の <u>シアー</u> があるが、通常はメソスケールの現象に対して用いる。	△	<u>シヤーライン</u>	風向、風速(どちらか一方でも良い)が急に変化しているところを結んだ線。総観規模の前線には大きな風の <u>シヤー</u> があるが、通常はメソスケールの現象に対して用いる。	気象学会での表記に統一。
△	前線帯	2つの気団の境界の領域。 <u>一般に</u> 、100km 以上の幅を持って <u>いる</u> 。	△	前線帯	<u>地表における</u> 2つの気団の境界の領域。100km 以上の幅を持って <u>おり</u> 、 <u>前線は前線帯の暖気側の境目に描かれる</u> 。	説明をより正確に。
	梅雨前線	春から盛夏への季節の移行期に、日本から中国大陸付近に出現する停滞前線で、一般的には、南北振動を繰り返しながら沖縄地方から東北地方へゆっくり北上する。		梅雨前線	春から盛夏への季節の移行期に、日本から中国大陸付近に出現する停滞前線で、一般的には、南北振動を繰り返しながら沖縄地方から東北地方へゆっくり北上する <u>ことが多い</u> 。	説明をより正確に。
	冬型の気圧配置	大陸に高気圧、日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置。		冬型の気圧配置	大陸に高気圧、日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置。	用例を差し替え。
	用例	冬型の気圧配置が強まる(<u>緩む</u> 、 <u>弱まる</u>)。		用例	冬型の気圧配置が強まる(<u>ゆるむ</u> 、 <u>崩れる</u>)。	
	備考	時間的、空間的に小さな西高東低の気圧配置は「冬型の気圧配置」とはいわない。		備考	時間的、空間的に小さな西高東低の気圧配置は「冬型の気圧配置」とはいわない。	
△	暖気移流	相対的に <u>暖気団側から寒気団側へ向かって風が吹き、温暖な気塊が、寒気に覆われていた空(地)域に流入すること</u> 。	△	暖気移流	相対的に <u>暖かい空気の流入</u> 。	説明をより正確に。
△	寒気移流	相対的に <u>寒気団側から暖気団側へ向かって風が吹き、寒冷な気塊が、暖気に覆われていた空(地)域に流入すること</u> 。	△	寒気移流	相対的に <u>冷たい空気の流入</u> 。	同上。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	転向する	台風の進路の方向が、 <u>偏西風の影響下に入り、西向きから北又は東向き</u> に変わることを。		転向する	台風の進路の方向が、 <u>北西</u> から <u>北東</u> に変わることを。	説明をより正確に。
△	備考	北暖西冷型 気温分布型のひとつ。日本を大きく北と西とに分けて北が平年より高く、西が平年より低い状態をいう。 <u>冬期に暖冬に関連して用いる。</u> 「北冷西暑」など、暖(暑)、冷、並を組み合わせる。ただし、「暑」は西が平年より高い場合のみ。全国一様のときは、全国高温または全国低温などと表現する。	△	備考	北暖西冷型 気温分布型のひとつ。日本を大きく北と西に分けて北が平年より高く、西が平年より低い状態をいう。 「北冷西暑」など、暖(暑)、冷、並を組み合わせる。ただし、「暑」は西が平年より高い場合のみ。全国一様のときは、全国高温または全国低温などと表現する。	説明をより詳細に。
△	晴れ間 備考	利用者にとって価値があると判断される場合(ぐずついた天気の間中など)に限って用いる。また夜間には用いない。	△	晴れ間 備考	<u>a) 利用者にとって価値があると判断される場合(ぐずついた天気の間中など)に限って用いる。また夜間には用いない。</u> <u>b) 予報文では「日が射す」を用いる。</u>	現在、使用していない。
	暴風 用例 備考	<u>暴風警報基準以上の風。</u> 風速が 20m/s 以上の暴風。 <u>a) 暴風を標題(警報、海上警報)以外で使用する場合は原則として風速を付記する。天気概況や情報には風速を明示して用いる。</u> <u>b) 台風の風速 25m/s 以上の暴風域。</u>		暴風 用例 備考	<u>「非常に強い風」に同じ。</u> 風速が 20m/s 以上の暴風。 <u>a) 天気概況や情報には風速を明示して用いる。</u> <u>b) 台風などの暴風域は風速が 25m/s 以上の領域。</u>	暴風警報発表時に「暴風」の用語を使い十分に注意喚起できるようにする。
△	おろし	山から吹きおろす <u>局地的な</u> 強風。 例 六甲おろし。赤城おろし。	△	おろし	山から吹きおろす <u>冷たい</u> 強風。 例 六甲おろし。赤城おろし。	説明をより正確に。
	木枯らし	木枯らし:晩秋から初冬にかけて吹く、北よりの(やや)強い風。		木枯らし <u>用例</u> <u>備考</u>	木枯らし:晩秋から初冬にかけて吹く、北よりの(やや)強い風。 <u>木枯らし1号。</u> <u>東京、大阪では「お知らせ」として発表している。</u>	一部地域の情報のため説明を簡略に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	高潮	台風など強い気象 <u>じょう</u> 乱に伴う気圧降下による海面の吸い上げ効果と風による海水の吹き寄せ効果のため、海面が異常に上昇する現象。		高潮	台風など強い気象 <u>擾</u> 乱に伴う気圧降下と風による海水の吹き寄せのため、海面が異常に上昇する現象。	「擾」をひらがな表記に統一、説明をより詳細に。
	異常潮位	潮位が比較的長期間（１週間から３か月程度）継続して平常より高く（もしくは低く）なる現象。府県より広い範囲に及ぶことが多く、原因として暖水渦の接近、黒潮の蛇行等があげられるが、様々である。		異常潮位	潮位が比較的長期間（１週間から３か月程度）継続して平常より高く（もしくは低く）なる現象。府県より広い範囲に及び、また原因が多岐にわたるなど予測の困難な場合が多い。	異常潮位の原因となる現象を記述。
	副振動	<u>日々くり返す満潮・干潮の潮位変化を主振動としてそれ以外の潮位の振動に対して名づけられたものであり、湾・海峡や港湾など陸や堤防に囲まれた海域等で観測される、周期数分から数１０分程度の海面の昇降現象をいう。</u> 主な発生原因は、台風、低気圧等の気象じょう乱に起因する海洋のじょう乱や津波などが長波となって沿岸域に伝わり、湾内等に入ることにより引き起こされる強制振動である。強制振動の周期が湾等の固有周期に近いものであれば、共鳴を起こして潮位の変化が著しく大きくなる場合がある。		副振動	<u>湾・海峡などで発生する海面の振動現象。数分から数十分程度の周期を持つものが多い。</u>	主振動を明記し、分かりやすい説明文に。
	平年と同様に 用例 備考	a) 晴れの日が平年と同様に多い。 b) 平年と同様に天気は数日の周期で変わる。 天気日数などの出現率や天候の特徴が平年と同じ場合などに用いる。		平年と同様に 用例 備考	a) 晴れの日が平年と同様に多い。 b) 平年と同様に天気は周期的に変わる。 天気日数などの出現率や天候の特徴が平年と同じ場合などに用いる。	説明をより正確に。
△	湿舌	<u>梅雨前線帯などに見られる高度３km付近の舌状にのびた湿潤な領域。前線帯での対流活動により、下層の水蒸気が上空に運ばれた結果、形成される。</u>	△	湿舌	<u>大気の中、下層に舌状に延びた湿潤な領域。湿舌の侵入により大雨となることが多い。</u>	説明を正確に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	豪雨 用例 備考	<u>著しい災害が発生した顕著な大雨現象。</u> <u>「〇〇豪雨に匹敵する大雨」等の表現を用いる。</u> <u>a) 著しい災害とは、激甚災害、命名された大雨災害。</u> <u>b) 既に命名された現象もしくはそれに匹敵する過去事象に対する使用に限定する。</u> <u>c) 命名の目安は「浸水家屋 10000 棟」等。</u>		豪雨	<u>1 時間または 3 時間の少なくとも一方が大雨警報の基準を超え、かつ 24 時間の警報基準を超える大雨。すなわち、「激しい雨」の状態が（断続的に）続き 24 時間以内に 100mm（北日本）～200mm（西日本）以上となる大雨。</u>	顕著な大雨災害が社会に与える影響が大きくなっており、このような状況を伝える用語である「豪雨」の運用を適切に行う。備考と用例を整理。
△	集中豪雨	<u>警報基準を超えるような局地的な大雨。</u>	△	集中豪雨	<u>狭い範囲における豪雨。局地的な豪雨。</u>	「豪雨」の説明変更に合わせて変更
	まとまった雨（雪） 備考	季節予報で少雨（雪）の状態が続いているときに、一時的にせよその状態が緩和されると期待されるときに用いる。 <u>季節予報で用いる。</u>		まとまった雨（雪） 備考	季節予報で <u>は</u> 少雨（雪）の状態が続いているときに、一時的にせよその状態が緩和されると期待されるときに用いる。 <u>通常は使用しない。</u>	使用条件を明示。
△	凍雨 備考	雨滴が凍って落下する透明の氷の粒。 透明な氷粒であるが、予報文では「雪」として扱う。	△	凍雨 備考	雨滴が凍って落下する透明 <u>または半透明</u> の氷の粒。 透明な氷粒であるが、予報文では「雪」として扱う。	説明をより正確に。
	降雪の深さ 備考	一定の期間内に積もった雪の深さ（ <u>cm 単位</u> ）。 期間を明記する。 <u>府県気象情報等ではアメダスの積雪深計についても積雪の深さの差の合計を「降雪の深さ」として用いる。</u>		降雪の深さ 備考	一定の期間内に積もった雪の深さ。 期間を明記する。	説明等をより詳細に。
<u>×</u> <u>→</u>	積雪量	音声伝達で <u>わかりにくいので使用しない。</u> <u>「積雪の深さ(cm 単位)」を用いる。</u>		積雪量	音声伝達で <u>は「積雪の深さ（cm 単位）」を用いる。</u>	音声伝達の時、聞き取りにくい。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	豪雪 用例 備考	<u>著しい</u> 災害をもたらすような大雪。 38 豪雪、56 豪雪、 <u>平成 18 年豪雪。</u> <u>豪雨に準じた使い方をする。</u>		豪雪 備考 用例	<u>重大な</u> 災害をもたらすような大雪。 <u>大雪注意報・警報のような明確な定義はないが、運用上は次に示すような一連の大雪を一応の目安とする。</u> <u>a)「豪雪地帯」を含む複数の府県予報区にわたりおよそ 2 日間以上続く大雪警報基準の雪。</u> <u>b)「豪雪地帯」を含む単一の府県予報区で数日にわたり大雪が降り、積雪が記録的(たとえば、その地域の歴代1～3 位)となったとき。</u> 38 豪雪、56 豪雪	「豪雨」と同様に、顕著な大雪災害が社会に与える影響が大きくなっており、このような状況を伝える用語である「豪雪」の運用をを適切に行う。備考と用例を整理。
△	梅雨のはしり	梅雨に先立って現れる <u>ぐずついた天気。</u>	△	梅雨のはしり	梅雨に先立って現れる <u>持続的な悪天。</u>	説明をより正確に。
△	小春日和	晩秋から初冬にかけての暖かく穏やかな晴天。		小春日和 <u>備考</u>	晩秋から初冬にかけての暖かく穏やかな晴天。 <u>季節予報では解説などで用いる。予報文では「暖かい晴れの日」「穏やかな晴れの日」などとする。</u>	解説用語に分類。
	週間天気予報 備考	<u>発表日翌日から7日先までの天気、気温などの予報。7日間の概要を簡潔に伝える全般週間天気予報、地方週間天気予報と、日ごとの予想を伝える府県週間天気予報とがある。</u> 略称は「週間予報」。		週間天気予報 備考	<u>翌日から7日先までの一日ごとの天気、気温などの予報。</u> 略称は「週間予報」。	説明をより詳細に。
	府県週間天気予報 <u>備考</u>	<u>府県予報区を対象とした週間天気予報。</u> <u>発表日</u> 翌日から7日先までの各府県予報区の日ごとの天気、降水確率、気温及び予報の信頼度をカテゴリー別に、または量的に伝え <u>ている。</u>		府県週間天気予報	翌日から7日先までの各府県予報区の日ごとの天気、降水確率、気温及び予報の信頼度をカテゴリー別に、または量的に伝える <u>予報(翌日・翌々日については府県天気予報と整合をとる)。</u> 府県予報区を担当する気象官署が発表する。	より適切な解説に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	地方週間天気予報 <u>備考</u>	<u>地方予報区を対象とした週間天気予報。</u> <u>発表日</u> 翌日から7日先までの各地方予報区の気圧系、天気、気温、降水量などの概要を簡潔に伝えている。		地方週間天気予報	翌日から7日先までの各地方予報区の気圧系、天気、気温、降水量などの概要を簡潔に伝える予報。 <u>地方予報区を担当する気象官署が発表する。</u>	より適切な解説に。
	全般週間天気予報 <u>備考</u>	<u>全国予報区を対象とした週間天気予報。</u> <u>発表日</u> 翌日から7日先までの全国的な気圧系、天気、気温などの概要を簡潔に伝えている。		全般週間天気予報	翌日から7日先までの全国的な気圧系、天気、気温などの概要を簡潔に伝える予報。 <u>全国予報区を担当する気象官署が発表する。</u>	より適切な解説に。
	降水短時間予報	1時間降水量を <u>30分毎に</u> 1km格子で6時間先まで予報するもの。		降水短時間予報	<u>日本全国について</u> 1時間降水量を1km格子 <u>単位</u> で6時間先まで予報するもの。	説明をより正確に。
	雲の帯(雲バンド) <u>備考</u>	<u>帯状になっている雲。</u> <u>台風に伴う外側の雲の帯や前線に伴う雲の帯に使う。</u>		雲の帯(雲バンド)	<u>ほぼ連続した雲域で幅はおよそ100km以上で長さは幅の4倍以上のものをいう。</u>	広く使用されており、厳格な数値基準は不要。
<u>×</u>	層状雲	比較的安定な大気中に発生する広範囲に水平に広がった雲。		層状雲	比較的安定な大気中に発生する広範囲に水平に広がった雲。	「層雲」と誤解されるおそれがある。
	雲域	<u>まとまりを持った</u> 雲の領域。		雲域	雲の <u>ある</u> 領域。	説明をより分かりやすく。
	筋状雲 <u>用例</u>	<u>下層の風向に沿って</u> 複数の対流雲の列が並んだもの <u>で、強い</u> 寒気吹き出しのときの日本海の雲列は代表例。 <u>筋状の雲と同意。</u> <u>「寒気の吹き出しに伴う筋状の雲」</u>		筋状雲	複数の対流雲の列が並んだもの。寒気吹き出しのときの日本海の雲列は代表例。	説明をより詳細に。
	対流雲	不安定な大気中に発生する <u>粒状又は</u> 団塊状の雲。		対流雲	<u>比較的</u> 不安定な大気中に発生する団塊状の雲。	同上
△	ノア(NOAA) <u>衛星</u>	米国の極軌道衛星。	△	ノア(NOAA)	米国の極軌道衛星。	NOAAは、米国の海洋大気庁。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	解析雨量 <u>備考</u>	レーダーとアメダスの長所を生かして1km 格子で解析した降水量分布。 <u>解説等では「レーダーで解析した雨量では〇〇市付近で約〇〇ミリ」のように表現してよい。また、解説資料等で「解析雨量」という表記を用いた場合は、解析雨量の意味を説明する注釈を付けるように努める。</u>		解析雨量	レーダーとアメダスの長所を生かして作成された1km 格子の降水量分布。	より適切な説明に。
	レーダーエコー合成図 <u>備考</u>	複数のレーダーで観測されたエコーを1つの地図上に合成したもの。 <u>全国合成レーダデータ(強度)は1km 格子、同(エコー頂高度)は2.5km 格子で表示。</u>		レーダーエコー合成図	複数のレーダーで観測されたエコーを1つの地図上に合成したもの。	参考情報を備考欄に追加。
	気象災害 <u>備考</u>	大雨、強風、雷などの気象現象によって生じる災害。 <u>風害、大雨害、大雪害、雷害、ひょう害、長雨害、干害、なだれ害、融雪害、着雪害、落雪害、乾燥害、視程不良害、冷害、凍害、霜害、塩風害、寒害、日照不足害など。</u>		気象災害	大雨、強風、雷などの気象現象によって生じる災害。	具体的な気象災害を備考欄にまとめて記述。
	高潮害	台風や発達した低気圧の接近に伴い、海水面が上昇し海水が陸地に浸入して起こる災害。		高潮害	台風や発達した低気圧の来襲に伴い、海水面が上昇し海水が陸地に浸入して起こる災害。	より適切な説明に。
△	数値予報	物理学の方程式に基づき、現在までの大気の観測を基にして、将来の大気や海洋の状態をコンピューターを用いて計算する技術。	△	数値予報	物理学の方程式に基づき、現在の大気の観測を基にして、将来の大気の状態をコンピューターを用いて計算する技術。	より適切な説明に。
△	数値予報モデル	大気や海洋の状態の変化を物理学の方程式に従って計算する手順を定めたもの。具体的には計算のプログラムのこと。	△	数値予報モデル	大気の状態の変化を物理学の方程式に従って計算する手順を定めたもの。具体的には計算のプログラムのこと。	より適切な説明に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用語名	説明	分類	用語名	説明	
△	メソモデル (MSM)	日本 <u>及び</u> その近海 <u>の大気</u> を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Meso Scale Model	△	メソモデル (MSM)	日本 <u>および</u> その近海を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Meso Scale Model	より適切な説明に。
△	領域モデル (RSM)	日本を中心とする東アジアの領域 <u>の大気</u> を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Regional Spectral Model	△	領域モデル (RSM)	日本を中心とする東アジアの領域を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Regional Spectral Model	同上
△	全球モデル (GSM)	地球全体 <u>の大気</u> を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Global Spectral Model	△	全球モデル (GSM)	地球全体を対象とした気象庁の数値予報モデル。 Global Spectral Model	同上
△	イニシャル 用例	数値予報 <u>の基となる</u> 最初の時刻。 00UTCイニシャルの <u>24 時間予想</u> 天気図。	△	イニシャル 用例	数値予報 <u>結果の内、最初の時刻の数値予報の基となるデータの観測時刻。</u> 00UTCイニシャルの天気図。	より適切な説明に。
△	<u>流域平均雨量</u>	<u>河川の</u> 流域ごとに面積平均した実況 <u>及び</u> 予想の雨量。 <u>河川の洪水と関係がある。</u>	△	<u>レーダー・アメダス流域雨量</u>	<u>解析雨量と降水短時間予報を用いて、流域ごとに面積平均した実況および</u> 予想の雨量。	用語名を変更。
	<u>はん濫</u>	河川の水がいっぱいになってあふれ出る こと。		<u>氾濫</u>	河川の水がいっぱいになってあふれ出る こと。	「氾」をひらがな表記に統一。
	<u>内水はん濫</u> 備考	河川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより、河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること。 内水 <u>はん濫</u> の対語として、河川の <u>はん濫</u> を「外水 <u>はん濫</u> 」ともいう。		<u>内水氾濫</u> 備考	河川の水位の上昇や流域内の多量の降雨などにより、河川外における住宅地などの排水が困難となり浸水すること。 内水 <u>氾濫</u> の対語として、河川の <u>氾濫</u> を「外水 <u>氾濫</u> 」ともいう。	同上
	地すべり	<u>斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。</u> <u>(風水害情報ガイドブックより)</u>		地すべり	<u>一般的に、山地の緩斜面を構成している土砂や岩石が、極めて緩慢に移動する現象で、降雨、融雪による地下水の急激な増加が誘因となって発生することが多い。</u>	より分かりやすい説明に
	がけ崩れ	<u>降雨時に地中にしみ込んだ水分により不安定化した斜面が急激に崩れ落ちる現象。</u> <u>(風水害情報ガイドブックより)</u>		がけ崩れ	<u>都市周辺の台地端の自然の急斜面や人工的に切り取った急斜面などの急激な土砂移動現象。</u>	同上

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	土石流	<u>山腹、谷底にある土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。</u> (風水害情報ガイドブックより)		土石流	<u>溪流の川床に崩落、たい積した土砂や岩石によってせき止められて水かさを増した川の水が、それらのたい積物を一気に押し流すもの。あるいは、斜面を崩落する土砂や岩石が多量の水と共に流動性を帯びて下流に流れるもの。</u>	より分かりやすい説明に
<u>×</u>	山津波 →	土石流のうち規模の大きいもの。 <u>「土石流」に言い換える。</u>	<u>△</u>	山津波	土石流のうち規模の大きいもの。	「山津波」は現在ほとんど使用されていない。
	酸性雨	<u>大気中の</u> 窒素酸化物や硫黄酸化物などの酸性物質が溶け <u>こむことにより酸性度が強くなった</u> 降水。		酸性雨	窒素酸化物や硫黄酸化物などの酸性 <u>汚染</u> 物質が溶けた降水 (<u>pH5.6 以下</u>)をいう。	より適切な説明に。
	注意報 備考	大雨などによって、災害が起るおそれがある場合にその旨を注意して行う予報。 気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の注意報がある。気象注意報には風雪、強風、大雨、大雪、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪の注意報がある。 地方气象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、 <u>津波注意報は気象庁本庁、管区气象台及び沖縄气象台が全国を66に区分した津波予報区に対して発表する。また、</u> 地面現象注意報と浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に含めて発表する(注意報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照)。		注意報 備考	大雨などによって、災害が起るおそれがある場合にその旨を注意して行う予報。 気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の注意報がある。気象注意報には風雪、強風、大雨、大雪、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪の注意報がある。 地方气象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象注意報と浸水注意報はその注意報事項を気象注意報に含めて発表する(注意報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照)。	「津波注意報、警報」の説明を追加。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用語名	説明	分類	用語名	説明	
	警報	重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報。 気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の警報がある。気象警報には暴風、暴風雪、大雨、大雪の警報がある。		警報	重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報。 気象、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水の警報がある。気象警報には暴風、暴風雪、大雨、大雪の警報がある。	「津波注意報、警報」の説明を追加。
	備考	地方気象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、<u>津波警報は気象庁本庁、管区気象台及び沖縄気象台が全国を66に区分した津波予報区に対して発表する。</u><u>また、</u>地面現象警報と浸水警報はその警報事項を気象警報に含めて発表する(警報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照)。		備考	地方気象台などが、府県予報区を一次細分区域、または二次細分区域に分けて定められた基準をもとに発表する。ただし、地面現象警報と浸水警報はその警報事項を気象警報に含めて発表する(警報の内容についてはそれぞれの関連項目を参照)。	
	海上風警報	海上で<u>風速が 28kt 以上 34kt 未満(13.9m/s 以上 17.2m/s 未満。風力階級は 7)</u>の状態に<u>既になっているか、</u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合<u>に発表する警報。</u>		海上風警報	海上で<u>風力階級が 7(風速が 13.9m/s 以上 17.2m/s 未満、または 28kt 以上 34kt 未満)</u>の状態。<u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。</u>	より正確な説明に。
	海上強風警報	海上で<u>風速が 34kt 以上 48kt 未満(17.2m/s 以上 24.5m/s 未満。風力階級は 8～9)</u>の状態に<u>既になっているか、</u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合<u>に発表する警報。</u>		海上強風警報	海上で<u>風力階級が 8～9(風速が 17.2m/s 以上 24.5m/s 未満、または 34kt 以上 48kt 未満)</u>の状態。<u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。</u>	同上
	海上暴風警報	台風の場合は、海上で<u>風速が 48kt 以上 64kt 未満(24.5m/s 以上 32.7m/s 未満。風力階級は 10～11)</u>の状態に<u>既になっているか、</u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合<u>に発表する警報。</u> 温帯低気圧の場合は、海上で<u>風速が 48kt 以上(24.5m/s 以上。風力階級が 10 以上)</u>の状態に<u>既になっているか、</u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合<u>に発表する警報。</u>		海上暴風警報	台風の場合は、海上で<u>風力階級が 10～11(風速が 24.5m/s 以上 32.7m/s 未満、または 48kt 以上 64kt 未満)</u>の状態または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。 温帯低気圧の場合は、海上で<u>風力階級が 10 以上(風速が 24.5m/s 以上、または 48kt 以上)</u>の状態または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。	より適切な説明に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	海上台風警報	台風により、 <u>海上で風速が 64kt 以上 (32.7m/s 以上。風力階級が 12 以上)</u> の状態に <u>既になっているか</u> 、または 24 時間以内にその状態になると予想される場合 <u>に発表する警報。</u>		海上台風警報	台風により、 <u>風力階級が 12 (風速が 32.7m/s 以上、または 64kt 以上)</u> の状態。 <u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。</u>	同上
	海上濃霧警報	海上の視程がおおむね 500m (瀬戸内海では 1km) 以下の状態に <u>既になっているか</u> 、または 24 時間以内にその状態になると予想される場合 <u>に発表する警報。</u>		海上濃霧警報	海上の視程がおおむね 500m (瀬戸内海では 1km) 以下の状態。 <u>または 24 時間以内にその状態になると予想される場合。</u>	同上
	重要変更	大雨警報を発表している状況下で、 <u>土砂災害の危険性がこの数年で最も高くなったときなど</u> 、特に警戒が必要な内容を警報に追加した場合には、 <u>警報の注意警戒文と内容行に「重要変更」を付して、より一層の警戒を呼びかけるもの。警報の発表文中に「重要変更！〇〇市付近ではこの数年で最も土砂災害の危険性が高まっています。」などと、特に警戒が必要な地域と、「災害の危険性がこの数年間で最も高い」というキーワードを使って重要な警戒事項を明記する。</u>		重要変更	大雨警報を発表している状況下で特に警戒が必要となる場合に <u>注意警戒文の先頭及び内容行 (注意報・警報の発表・変更状況) に「重要変更！」を明示して使用する。</u> <u>当面は、重大な土砂災害の危険性が高いと判断される場合に限る。「過去数年間で最も土砂災害の危険性が高まっています」という説明文を加え、土砂災害に対する一層の警戒を伝える。</u>	より適切な説明に。
	注意警戒文	警報・注意報・気象情報のより有効な利用をはかるため、警戒すべき場所、 <u>期間</u> 、現象の程度や災害発生の危険度等を具体的に示し 100 文字以内でまとめたもの (<u>気象情報は 100 文字程度</u>)。		注意警戒文	警報・注意報・気象情報のより有効な利用をはかるため、警戒すべき場所、 <u>時間</u> 、現象の程度や災害発生の危険度等を具体的に示し 100 文字以内でまとめたもの。	より適切な説明に。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>北海道地方</u>	<u>北海道全域。</u>		<u>地方予報区</u>	<u>二つ以上の府県を含む区域またはこれに相当する区域を範囲とする予報区。次の11地方予報区がある。</u>	予報区の字句を削除。全般情報、地方情報等で使用する地域名を明示。
	<u>北海道地方</u>	<u>北海道全域。</u>		<u>北海道地方予報区</u>	<u>北海道全域。</u>	
	<u>東北地方</u>	<u>青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県。</u>		<u>東北地方予報区</u>	<u>青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島の各県。</u>	
	<u>東北地方</u>	<u>青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県。</u>		<u>東北地方予報区</u>	<u>青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島の各県。</u>	
	<u>関東甲信地方</u>	<u>東京都、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、神奈川県、長野県、山梨県。</u>		<u>関東甲信地方予報区</u>	<u>東京都、栃木、群馬、埼玉、茨城、千葉、神奈川、長野、山梨の各県。</u>	
	<u>関東甲信地方</u>	<u>東京都、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、神奈川県、長野県、山梨県。</u>		<u>関東甲信地方予報区</u>	<u>東京都、栃木、群馬、埼玉、茨城、千葉、神奈川、長野、山梨の各県。</u>	
	<u>東海地方</u>	<u>静岡県、岐阜県、三重県、愛知県。</u>		<u>東海地方予報区</u>	<u>静岡、岐阜、三重、愛知の各県。</u>	
	<u>東海地方</u>	<u>静岡県、岐阜県、三重県、愛知県。</u>		<u>東海地方予報区</u>	<u>静岡、岐阜、三重、愛知の各県。</u>	
	<u>北陸地方</u>	<u>新潟県、富山県、石川県、福井県。</u>		<u>北陸地方予報区</u>	<u>新潟、富山、石川、福井の各県。</u>	
	<u>北陸地方</u>	<u>新潟県、富山県、石川県、福井県。</u>		<u>北陸地方予報区</u>	<u>新潟、富山、石川、福井の各県。</u>	
	<u>近畿地方</u>	<u>京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県。</u>		<u>近畿地方予報区</u>	<u>京都、大阪の各府、兵庫、奈良、滋賀、和歌山の各県。</u>	
	<u>近畿地方</u>	<u>京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県。</u>		<u>近畿地方予報区</u>	<u>京都、大阪の各府、兵庫、奈良、滋賀、和歌山の各県。</u>	
	<u>中国地方</u>	<u>鳥取県、島根県、岡山県、広島県。</u>		<u>中国地方予報区</u>	<u>鳥取、島根、岡山、広島の各県。</u>	
	<u>中国地方</u>	<u>鳥取県、島根県、岡山県、広島県。</u>		<u>中国地方予報区</u>	<u>鳥取、島根、岡山、広島の各県。</u>	
	<u>四国地方</u>	<u>香川県、愛媛県、徳島県、高知県。</u>		<u>四国地方予報区</u>	<u>香川、愛媛、徳島、高知の各県。</u>	
	<u>四国地方</u>	<u>香川県、愛媛県、徳島県、高知県。</u>		<u>四国地方予報区</u>	<u>香川、愛媛、徳島、高知の各県。</u>	
	<u>九州北部地方(山口県を含む)</u>	<u>山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県。</u>		<u>九州北部地方予報区</u>	<u>山口、福岡、大分、佐賀、熊本、長崎の各県。</u>	
	<u>九州北部地方(山口県を含む)</u>	<u>山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県。</u>		<u>九州北部地方予報区</u>	<u>山口、福岡、大分、佐賀、熊本、長崎の各県。</u>	
	<u>九州南部・奄美地方</u>	<u>宮崎県、鹿児島県。</u>		<u>九州南部地方予報区</u>	<u>宮崎、鹿児島の各県。</u>	地域を明示した地方名にする。現在は、「奄美地方」を含む場合と含まない場合の使い分けを「九州南部地方」、「九州南部」で行っている。
	<u>九州南部・奄美地方</u>	<u>宮崎県、鹿児島県。</u>		<u>九州南部地方予報区</u>	<u>宮崎、鹿児島の各県。</u>	
	<u>沖縄地方</u>	<u>沖縄県。</u>		<u>沖縄地方予報区</u>	<u>沖縄県。</u>	

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分 類	用 語 名	説 明	分 類	用 語 名	説 明	
	<u>北海道地方</u> <u>北海道日本</u> <u>海側</u> <u>北海道日</u> <u>本海側北部</u> <u>北海道日</u> <u>本海側南部</u> <u>北海道オホ</u> <u>ーツク海側</u> <u>北海道オホ</u> <u>ーツク海側北</u> <u>部</u> <u>北海道オホ</u> <u>ーツク海側南</u> <u>部</u> <u>北海道太平</u> <u>洋側</u> <u>北海道太</u> <u>平洋側西部</u> <u>北海道太</u> <u>平洋側東部</u>	<u>宗谷北部、利尻・礼文、上川地方、留萌地方</u> <u>、空知地方、石狩地方、後志地方、檜山地方。</u> <u>上川北部、上川中部、留萌地方、北空知、宗</u> <u>谷北部、利尻・礼文。</u> <u>石狩地方、後志地方、檜山地方、中空知、南</u> <u>空知、上川南部。</u> <u>宗谷南部、紋別地方、網走地方、北見地方。</u> <u>宗谷南部、紋別北部。</u> <u>網走地方、北見地方、紋別南部。</u> <u>根室地方、釧路地方、十勝地方、胆振地方、</u> <u>日高地方、渡島地方。</u> <u>胆振地方、日高地方、渡島地方。</u> <u>根室地方、釧路地方、十勝地方。</u>		<u>北海道地方</u> <u>日本海側</u> <u>オホーツク</u> <u>海側</u> <u>太平洋側</u>	<u>上川、留萌、石狩、後志、空知、檜山の各支</u> <u>庁および渡島支庁(八雲町の檜山北部の区域)</u> <u>、宗谷支庁の北部、利尻・礼文。</u> <u>宗谷支庁の南部および網走支庁。</u> <u>根室、釧路、十勝、胆振、日高、渡島(八雲</u> <u>町の檜山北部の区域を除く)の各支庁。</u>	地方情報等で使用する地域名 をより具体的に明示。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>東北地方</u> <u>備考</u> <u>東北日本</u> <u>海側</u> <u>東北太平</u> <u>洋側</u>	<u>季節や予報の内容により分割の仕方が異なる。</u> <u>青森県(津軽地方)、秋田県、山形県、福島県(会津地方)。</u> <u>青森県(下北、三八上北地方)、岩手県、宮城県、福島県(中通り、浜通り地方)。</u>		<u>東北地方</u> <u>備考</u> <u>日本海側</u> <u>太平洋側</u>	<u>季節や予報の内容により分割の仕方が異なる。</u> <u>青森(津軽地方)、秋田、山形、福島(会津地方)の各県(各地方)。</u> <u>青森(下北、三八上北地方)、岩手、宮城、福島(中通り、浜通り地方)の各県(各地方)。</u>	地方情報等で使用する地域名をより具体的に明示。
×	<u>関東甲信地方</u> <u>関東地方</u> <u>甲信地方</u> <u>北部</u> →	<u>栃木県、群馬県、茨城県、東京都(島しょ部を除く)、埼玉県、千葉県、神奈川県。</u> <u>「長野県の北部と中部」と言い換える。</u>	×	<u>関東甲信地方</u> <u>甲信地方</u> <u>北部</u>	 <u>長野県の北部と中部。</u>	同上
	<u>東海地方</u> <u>備考</u>	<u>愛知県、岐阜県、三重県、静岡県。</u> <u>季節予報、地方週間天気予報で寒候期に限り「岐阜県山間部」(美濃地方山間部と飛騨地方)を使用。</u>	×	<u>東海地方</u> <u>東海地方</u> <u>静岡</u>	<u>岐阜、三重、愛知の各県。</u> <u>静岡県。</u>	東海地方の対象とする地域名を明示
	<u>近畿太平</u> <u>洋側</u> <u>備考</u> <u>近畿日本</u> <u>海側</u> <u>備考</u>	<u>京都府南部、兵庫県南部、滋賀県南部、大阪府、奈良県、和歌山県。</u> <u>季節予報で使用する。</u> <u>京都府北部、兵庫県北部、滋賀県北部。</u> <u>季節予報で使用する。</u>		<u>近畿太平</u> <u>洋側</u> <u>近畿日本</u> <u>海側</u> <u>備考</u>	<u>近畿中部、近畿南部(季節予報で使用する)。</u> <u>近畿北部(季節予報で使用する)。</u> <u>滋賀県北部は年間を通して近畿日本海側に入れる。</u>	地方情報等で使用する地域名をより具体的に明示。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>九州北部地方(山口県を含む)</u>	<u>山口県、福岡県、大分県、佐賀県、長崎県、熊本県。</u>		<u>九州北部地方 備考</u> <u>九州北部</u> <u>九州中部</u>	<u>一般には山口県は含まないが、地方予報中 枢官署としての福岡管区気象台が担当する九州北部地方を指す場合は、「九州北部地方(山口県を含む)」、「山口県を含む九州北部地方」などとする。</u> <u>山口、福岡、大分、佐賀の各県および長崎県北部(県北部、壱岐、対馬)。</u> <u>熊本県、長崎県南部(県南部、五島)。</u>	地方情報等で使用する地域名をより具体的に明示。
	<u>九州南部・奄美地方</u> <u>九州南部奄美地方</u>	<u>宮崎県、鹿児島県の本土、種子島、屋久島。奄美諸島、トカラ列島。</u>		<u>九州南部地方</u> <u>九州南部奄美</u>	<u>宮崎県、鹿児島県の本土、種子島、屋久島。奄美諸島。</u>	地域を明示した地方名にする。現在は、「奄美地方」を含む場合と含まない場合の使い分けを「九州南部地方」、「九州南部」で行っている。
	<u>沖縄地方</u> <u>沖縄本島地方</u> <u>大東島地方</u> <u>宮古島地方</u> <u>石垣島地方</u> <u>与那国島地方</u> <u>八重山地方</u>	<u>本島北部、本島中南部、久米島。</u> <u>南大東島、北大東島。</u> <u>宮古島市、多良間村。</u> <u>石垣市、竹富町。</u> <u>与那国町。</u> <u>石垣島地方、与那国島地方。</u>		<u>沖縄地方</u> <u>沖縄本島</u> <u>宮古・八重山</u> <u>大東島</u>	<u>沖縄本島付近。</u> <u>宮古諸島、八重山諸島。</u> <u>南大東島、北大東島。</u>	地方情報等で使用する地域名をより具体的に明示。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	南西諸島	<u>九州南端から台湾の間の弧状列島の総称。</u>		南西諸島		説明の付加。
	(第6図の表示範囲の拡張)	拡張範囲の説明： <u>地図の領域の北東側の北海道付近を国後島、択捉島の入る範囲まで広げた地図とし、北緯 50 度以南のオホーツク海を「オホーツク海南部」と表示する。</u>				全般海水情報で使用。 第 6 図は別途添付
新たに掲載する用語						
×	爆弾低気圧 →	<u>中心気圧が 2 4 時間で 24hPa×sin(φ) / sin(60°) 以上低下する温帯低気圧 (φは緯度)。例えば北緯 40° なら 17.8hPa/24h が基準となる。(気象科学事典等による)</u> <u>「急速に発達する低気圧」などと言い替える。</u>				低気圧により防災上注目すべき気象現象や特徴などが異なることから、低気圧についての総称的な名称を設けるのではなく、左記のような表現を用いることとする。なお、「爆弾低気圧」等の名称は利用者によっては不快に感じることもあるので、使用しない。
×	超低気圧 →	<u>「非常に強い風を伴う低気圧」「猛烈な風を伴う低気圧」などと言い替える。</u>				台風時の解説で使用。
	吹き返しの風	<u>台風が通過した後にそれまでと大きく異なる風向から吹く強い風。</u>				気象解説で使用。
△	北冷西暑型	<u>気温分布型のひとつ。日本を大きく北と西とに分けて北が平年より低く、西が平年より高い状態をいう。夏期に着目される。</u>				同上
△	縁辺流 備考	<u>太平洋高気圧の西端を廻る暖かく湿った空気の流れ。</u> <u>縁辺流が強い時には、前線や低気圧を伴わなくても大雨となることがある。</u>				突風災害に関係して気象解説で使用。
△	マイクロバースト マクロバースト	<u>ダウンバーストを水平方向の風の広がりで分類したもの。マクロバーストは 4km 以上、マイクロバーストは 4km 未満をいう。</u>				

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
△	藤田スケール	<u>竜巻、マイクロバーストなどの強い風の尺度として世界的に用いられており、F0 からF5 の 6 段階に区分されている。</u> <u>F0 : 17 ～32m/s (約 15 秒間の平均)</u> <u>テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。</u> <u>小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。</u> <u>非住家が壊れるかもしれない。</u> <u>F1 : 33 ～49m/s (約 10 秒間の平均)</u> <u>屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。</u> <u>F2 : 50 ～69m/s (約 7 秒間の平均)</u> <u>住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。</u> <u>F3 : 70 ～92m/s (約 5 秒間の平均)</u> <u>壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車が持ち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半は折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。</u> <u>F4 : 93 ～116m/s (約 4 秒間の平均)</u> <u>住家がバラバラになってあたりに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1 トン以上もある物体が降ってきて、危険この上もない。</u>				突風災害での調査報告あるいは竜巻の強さ等を示すために広く使用されるようになった。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	用例	<u>F5：117 ～142m/s（約3秒間の平均）</u> <u>住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などが持ち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。</u> <u>〇〇市では、「多数の住宅の屋根瓦が飛んだり屋根がはぎ取られた」「樹木が倒れたり折れていた」「自動車が横転した」等の被害状況から、竜巻の強度は藤田スケールでF2と推定される。</u>				
	備考	<u>突風災害の調査報告で被害等の状況を示す参考値として用いる。</u>				
△	<u>吹き寄せ(効果)</u>	<u>海岸に向かって吹く風によって、海水が沿岸に吹き寄せられて潮位が高くなること。</u>				高潮の解説に必要。
△	<u>吸い上げ(効果)</u>	<u>台風など強い気象じょう乱に伴う気圧降下によって、海水が吸い上げられて潮位が高くなること。</u>				同上
△	<u>潮位の観測基準面(DL)</u>	<u>各検潮所毎に設定された潮位を観測する基準面。通常、観測値が負にならないように設定する。</u> Datum Line				同上
	<u>東京湾平均海面(TP)</u>	<u>標高(海拔高度)の基準面で、予警報で潮位を示す際の基準面とする。なお、水準測量で使用する日本水準原点はTP上24.4140mと定義されている。</u> Tokyo Peil				注・警報本文で使用。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>平均海面水位 (MSL)</u>	<u>ある一定期間の海面水位の平均値。一定期間として1年や5年が用いられることが多い。検潮施設のない地点や離島などTPと関連付けのない地点では潮位の実況や予測の基準面としてTPに準じて取り扱われる。</u> <u>Mean Sea Level</u>				離島等の注・警報本文で使用。
<u>△</u>	<u>暖水渦</u>	<u>周囲より水温が高く、北半球(南半球)で時計回り(反時計回り)の循環をもつ渦を暖水渦と呼ぶ。暖水渦の中心では、水位が周囲に比べて高いという特徴がある。</u>				気象情報等で脚注等の説明を付して使用。
<u>△</u>	<u>冷水渦</u>	<u>周囲より水温が低く、北半球(南半球)で反時計回り(時計回り)の循環をもつ渦を冷水渦と呼ぶ。冷水渦の中心では、水位が周囲に比べて低いという特徴がある。</u>				同上
<u>△</u>	<u>猛暑日</u>	<u>日最高気温が35度以上の日。</u>				解説に使用する用語として、最高気温が35度以上の日について、新たに定める。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	熱中症 用例	<u>高温、多湿、風が弱いなどの環境や、激しい労働や運動によって体にたまる熱などに体が十分に対応できず体内の水分や塩分のバランスが崩れ、また体温の調節機構が破綻するなどの原因で起こる症状の総称。(参考:環境省熱中症保健指導マニュアル2006 URLhttp://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html)</u> <u>〇〇では、今日日中の予想最高気温は××℃になる見込みです。熱中症などに注意して下さい。</u>				気象情報でも使用することから、用例を示す。
	<u>日照時間</u>	<u>直射日光が雲などに遮られずに 0.12kw・m⁻²以上で地表を照射した時間。×.×時間とあらわす。</u>				気象情報等で使用。
	<u>日照不足</u>	<u>日照時間が少ない状態が続くこと。農作物の生育に影響を及ぼすことがある。</u>				気象情報等で使用。
	<u>なだれ</u>	<u>山などの斜面に積もった雪が、重力により崩れ落ちる現象。表層なだれと全層なだれとがある。</u>				気象情報等で使用。
	<u>猛ふぶき</u>	<u>強い風以上の風を伴うふぶき。</u>				気象情報等で使用。
	<u>落雪</u> 備考	<u>屋根等に積もった雪が落下すること。</u> <u>大雪や、気温が上昇し雪解けが進むようなとき、天気概況や気象情報の本文で、「屋根からの落雪にも注意してください」等の表現で使用する。</u>				最近増えている大雪後の現象。
	<u>融雪</u> 備考	<u>積雪が大雨や気温の上昇により解ける現象。</u> <u>風が強いと解けやすくなる。</u>				気象情報等で使用。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>運輸多目的衛星</u>	<u>国土交通省(気象庁及び航空局)が運用している、航空管制機能と気象観測機能を併せ持つ多目的衛星。</u>				新たに運用を開始した機器、システム。
<u>△</u>	<u>ウィンドプロファイラ</u>	<u>地上から上空に向けて電波を発射し、上空の風向風速を測定する装置。</u>				同上
<u>△</u>	<u>ウィンダス(WINDAS)</u>	<u>「局地的気象監視システム」(WINDAS:WInd profiler Network and Data Acquisition System)の略称。全国31か所のウィンドプロファイラ観測局と、これらを制御しデータを収集する中央監視局で構成している観測処理システム。</u>				同上
	<u>洪水害</u>	<u>洪水によって引き起こされる災害。</u>				気象情報等で使用。
	<u>浸水害</u>	<u>浸水によって引き起こされる災害。</u>				同上
	<u>土砂災害</u>	<u>降雨、地震及び火山噴火等による土砂の移動が原因となる災害。</u>				注警報文で使用。
	<u>落雪害</u>	<u>落雪によって人的被害・物的被害が発生すること。</u>				最近増えてきた災害。
	<u>備考</u>	<u>平成18年豪雪では、落雪により多数の死者が出た。</u>				
<u>△</u>	<u>格子モデル</u>	<u>数値予報の計算の一手法で、大気の状態を格子点値で表現して計算する手法。</u>				現業モデルの一つとして使用。
<u>△</u>	<u>波浪モデル</u>	<u>波浪の予想のために使用する海洋の数値予報モデル。大気モデルで予測した海上の風を用いて波の高さ(や向き)を計算する。</u>				解説等で使用。
<u>△</u>	<u>高潮モデル</u>	<u>高潮の予想のために使用する海洋の数値予報モデル。大気モデルで予測した海上の風と気圧を用いて潮位偏差を計算する。</u>				同上

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
△	初期値	数値予報モデルで予測するための基となるデータ。観測・解析された格子点値にノイズを抑えるための数学的・物理学的処理をすることによって得られる。				数値予報資料の説明に使用。
△	流域雨量指数	河川流域の降雨をもとに、洪水の危険度を評価するための指標。				解説資料等で使用。
	津波注意報 備考	津波の有無及び程度について一般の注意を喚起するために行う予報。 高いところで0.5m程度の津波が予想される場合に、該当する津波予報区に対して発表する。 津波が原因で、海岸付近の低い土地に浸水することにより災害が起こるおそれのある場合は、浸水注意報を津波注意報として行う。				天気予報の用語ではないが、気象庁から発表される注意報・警報のひとつとして掲載。
	津波警報 備考	津波によって重大な災害の起こるおそれのある旨を警告して行う予報。 高いところで2m程度の津波が予想される場合は「津波」の津波警報、高いところで3m程度以上の津波が予想される場合は「大津波」の津波警報を、該当する津波予報区に対して発表する。 津波が原因で、海岸付近の低い土地に浸水することにより重大な災害が起こるおそれのある場合は、浸水警報を津波警報として行う。				天気予報の用語ではないが、気象庁から発表される注意報・警報のひとつとして掲載。
	海上着氷警報	海上で低温と風により波しぶき、雨や霧が船体に付着し、凍結する状態に既になっているかまたは、24時間以内にその状態になると予想される場合に発表する警報。				海上警報として発表。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
	<u>沖縄・奄美</u>	<u>鹿児島県奄美地方、沖縄地方。</u>				これまで「南西諸島」として「種子島、屋久島地方を含む場合」と「含まない場合」の二つの使い方をしていた。今後は「南西諸島」を「種子島、屋久島地方を含む場合」にのみ用い、含まない場合は「沖縄・奄美」とする。
	<u>アニワ湾</u>	<u>アニワ湾</u>				地方海水情報で使用。
	<u>根室海峡</u>	<u>ネムロカイキョウ</u>				同上
	<u>瑤瑤水道</u>	<u>ゴヨウマイスイドウ</u>				同上
削除する用語						
				<u>寒冷低気圧</u>	中心ほど気温が低い低気圧。前線を伴わない。	気象庁部内で使用している専門的な用語。天気予報や解説などでは使用しないことから削除。
				<u>前線の活動が活発</u>	前線活動に伴い大雨が降っている、または予想される状態。	前線の用例に記載。
			△	<u>極うず指数</u>	70° N と 80° N の 500hPa 高度偏差の和。極付近の寒気の蓄積の度合いをみる。	気象庁部内で使用している専門的な用語。天気予報や解説などでは使用しないことから削除。
			△	<u>東西流型</u>	偏西風が緯度線に平行で、南北の蛇行が小さい状態。	同上
				<u>雲の列</u>	積雲系の雲からなる列状の雲。幅はおおよそ 100km 以下。	一般的な表現なため、あえて記載しない。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
			△	雲の渦	低気圧性回転を伴ってらせん状に巻き込んだ1本以上の帯状または線状の雲域を持つ雲パターン。	一般的な表現なため、あえて記載しない。
			△	クラウドクラスター(Cb クラスタ)	多くの積乱雲が比較的狭い範囲に密集している雲域。Cbクラスターともいう。大雨、突風などの顕著現象を伴うことが多い。	気象庁部内で使用している専門的な用語。天気予報や解説などでは使用しないことから削除。
			△	シーラスストリーク	細長い筋状の巻雲。上層の流れにほぼ沿う。	同上
			△	ドライスロット	低気圧などの中心に向かって溝状に延びている雲の少ない領域。	同上
			△	Cg	気象衛星用語としては、発達した積雲およびかなとこ(アンビル)を伴わない積乱雲。Cumulus Congestus(雄大積雲)から由来する。	同上
			△	ジェット巻雲 備考	ジェット気流に沿って、その赤道側の近傍に現れる巻雲。 「ジェット気流に伴う上層の雲」などの説明を付ける。	同上
			△	波状雲	山脈などの風下にできる波のように配列した雲。通常、高積雲か層積雲で構成される。	同上
			△	コンマ雲	発達した低気圧の後面から近づく上層の谷に伴い積雲や積乱雲が組織化してコンマ状になった雲域。	同上
			△	フックパターン	雲域内に寒気側から晴天域がわずかに入り込んで雲域が鉤(フック)状になっている状態。	同上
			△	帯状対流雲	冬の日本海で寒気の吹き出しに伴って現われる幅の広い雲の帯。南縁にCbやCgを含むことが多い。	同上

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分類	用 語 名	説 明	分類	用 語 名	説 明	
			△	インスタントオクルージョン	前線上の波動に伴う未発達雲の雲域と寒気域内の低気圧に伴うコンマ雲が併合して、あたかも前線上の低気圧が発達して、閉塞過程にあるような雲パターンが形成されること。	気象庁部内で使用している専門的な用語。天気予報や解説などでは使用しないことから削除。
			△	鉛直流(ω)	上下方向の大気の流れ。現在の数値予報においては、上層と下層の収束・発散量から求められる。	同上
			△	対流有効位置エネルギー(CAPE)	対流が起きるとき周囲に行う仕事量。値が大きいほど不安定であることを示す。Convective Available Potential Energy	同上
			△	相当温位	水蒸気を含んだ空気塊が断熱的に上昇・下降しても保存する温位。温度が高いほど、また湿度が高いほど大きな値となる。	同上
			△	表層崩壊	斜面の表層を形成する土砂が急激にすべり落ちる現象で、山崩れはこの現象であることが多い。	使用しないため削除。
				全国予報区	日本全域を範囲とする予報区。	情報等で「〇〇予報区」と直接言及することはない。

改 正 案			現 行			改 正 理 由
分 類	用 語 名	説 明	分 類	用 語 名	説 明	
				府県予報区	都府県は、それぞれ1府県予報区となっている。ただし、北海道は「宗谷」「網走」「上川、留萌」「釧路、根室、十勝」「胆振、日高」「石狩、後志、空知」「渡島・檜山」の7府県予報区、沖縄県は「南大東島、北大東島」「宮古」「八重山」およびこれらを除く区域の4府県予報区に分けられている。 府県予報区は、予報および注意報、警報の発表に際して定常的に細分する「一次細分区域」と、必要に応じて、さらに細分する「二次細分区域」がある。細分区域名は注意報、警報の標題にも用いられる。	同上
				全般海上予報区	東は東経180度、西は東経100度、南は緯度0度、北は北緯60度の線により限られた海域。	同上
				地方海上予報区	日本の海岸線から300海里(約600km)以内の海域。12の地方海上予報区からなる。(地図(第5図)参照)	情報等で「〇〇予報区」と直接言及することはない。
				本州中部	中部地方を中心とし、その周辺を含む地域。	対象地域が不明瞭。